

市政に あなたの声を...



はがきやメールなどで、市へ届けられるみなさんの声は1年間で約300件に上ります。

そのご意見のいくつかを紹介し、市政にどのようにいかしているかについてお伝えします。

ある夫妻の投書から

「自転車に乗るのが好き」という森貴富さん・亜由美さん（北園町・写真下）。昨年結婚し、岡山市から移り住んできたばかりです。新天地津山の豊かな自然環境を満喫しています。

自転車に乗ると、自動車では見られないすてきな風景を目にできます。しかし、なかには疑問に思つものも。森夫妻は、そのときどきに見つけた町のようにすを投書してくださっています。

自転車から 見えた疑問



《疑問 道のごぼご》

環境問題にも関心のある夫妻は、ごみ減量にも心がけています。ある日、空きびんをリサイクルに出すため、2人が自転車で走っていると、ガタンという衝撃とともに載せていたびんがごから飛び出しそうになりました。後ろを振り向くと、街路樹の根がアスファルトを押し上げたのか、道にごぼごが...。「この道路のごぼご、なんとかならないの?」

《疑問 年度末の道路工事》

また3月には、他の月に比べて道路工事が多いことが気にかかっています。その都度、工事現場をう回して走行することもしばしば。「年度末に集中する工事を分散できないの?」

《疑問 犬のふんの始末》

貴富さんの通勤手段はもっぱら自転車で、宮川の河川敷をよく走ります。自動車が少なく、川べりの新鮮な空気を感じられる道です。ところが、その心地良さを害する光景を見せましました。犬を散歩させている人がそのふんを川土手に放り投げていたのです。

この問題については、亜由美さんも疑問に思っていました。前に住んでいた町ではふんを持ち帰ることが飼い主のマナーだったからです。

「飼い主にふんを持ち帰ってもらえないの?」

《そして市への投書》

自転車を通じて思つた疑問の数々は、家で2人の話題になります。そして、毎月広報紙を読む機会をとらえ、思いをはがきに記し、市民の意見として投書しています。

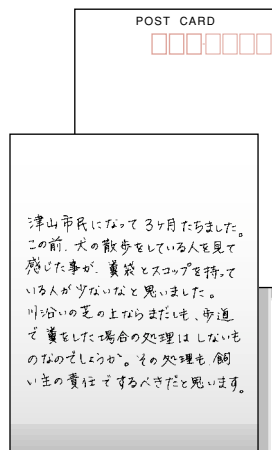


「まだ日の浅い津山での生活で広報紙は大切な情報源。紹介されているみなさんの意見も参考になります。今後も生活の中で気づいたことを投書したいです」

市から回答があることも

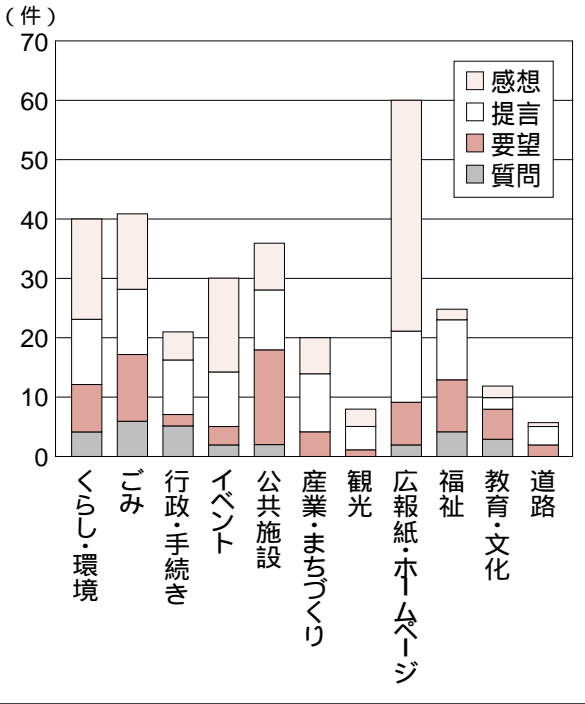
これまでに森夫妻が投書した意見のいくつかについては、市の関係職員が回答しています。たとえば疑問について、「用水期や降雨期を避けて工事するため、どうしても年度末に工事が集中してしまいます。今後はできるだけ早期発注に努めていきます」。

移り住んだ人には、目に映る風景すべてが新鮮。だからこそ見えてくる疑問の数々を今後もいただきたいと思えます。



津山市民になって3ヶ月たちました。この前、犬の散歩をしている人を見て感じた事が、糞袋とスコップを持っている人が少ないなと思いました。川沿いの芝の土ならまだしも、歩道で糞をした場合の処理はしないものではないかと。その処理も、飼い主の責任でするべきだと思います。

平成15年度に寄せられた市民の声の件数と分類



各担当課へ直接届けられたものは含まない

届いた300件の声

市では、市民のみなさんの思いを知り、それを市政や日ごろの業務へいかしていくため、広報紙やホームページで市政へご意見をいただく案内をしています。はがきやメールなどで行政広報室へ届けられるみなさんからの声は、平成15年度で約300件（1か月にはがき約20通、メール約5通）。自分自身に関係することから、これからの津山市の展望まで、内容は広範囲にわたっています。

声の行き先

寄せられたみなさんからの声は、内容に応じて担当課に伝えるとともに市長・助役が目を通していきます。内容によっては、すぐに対応できないこともあります。必要の場合、直接本人に回答しています。この流れは、プライバシーに配慮しながらデータベース化しています。これにより、職員がコンピュータでみなさんの思いを知り、自分の業務にいかしていくこともできます。



投書

受付
みなさんからの声は行政広報室で受け付けます

報告
担当課からの回答の有無にかかわらず市長・助役へ報告します

行政広報室

対応
内容に応じて担当課へ伝えます

回答
回答が必要なものは、各担当課から市民のみなさんへ回答します。その内容は行政広報室にも報告されます

市長・助役

担当課



活用してください！
「青空リサイクルプラザ」

市では、缶・びんのほかに紙類や古着、金属類を出前で資源回収しています。
とき 毎週日曜日午前8時～午後1時（雨天決行）
ところ アイム天満屋東一宮店駐車場
問い合わせ先 市環境事業課☎22 8255へ

あなたの声が
津山を良くします

市政へ届けられた声の一部は、広報つやま「市民のひろば」の中で掲載しています。ここでは、その後業務が改善されたものをいくつか紹介します。

ス

スーパーマーケットでの缶・びんの資源回収場所を増やしてほしい

回答 回収拠点については、マナーの悪い出し方をされることもあって、お店の理解を得られにくい状況です。しかし、今年5月からはニシナ小原店が取り組みに参加されるなど、徐々に回収場所が広がっています（19ページに関連記事）

プ

プラスチック容器包装の収集日を増やしてほしい

回答 要望多数のため、昨年10月から月によって3、4回実施しています

グ

グリーンヒルズ津山のトリムの森にある、遊具が老朽化しているのを取り替えてほしい

回答 ご指摘の遊具（タワーザンロープ）についてはその後取り替えました



鶴

山公園の入り口の手すりと門の枠にサビが浮き出ているので修繕してほしい

回答 津山城築城400年記念事業の開幕に合わせて今年3月に修繕しました

ホームページで紹介している
津山の人物

- (50音順)
- 稲葉浩志さん（平成12年に市民栄誉賞を受賞）
 - 浮田佳奈さん（津山市観光大使）
 - 押阪 忍さん（津山市観光大使）
 - 桜乃彩音さん（花組所属のタカラジェンヌ）
 - 高橋信二さん（プロ野球選手）
 - Flower Pot Rock（津山地域出身のバンド）
 - 三谷大和さん（元東洋太平洋ジュニアライト級チャンピオン）

掲載については、事務所の許可を得ています。また、文化人も紹介しています

津

山市のホームページをiモード以外でも見られるようにしてほしい

回答 どの携帯電話からも直接アドレスを入力すれば見られます。通信各社には、市ホームページの検索メニューへの登録を要望しています

ホ

ホームページで津山出身の有名な人物を紹介してほしい

回答 昨年9月に「津山の人物」のコーナーを設けています。今後徐々に紹介する人物も増やしていきます



私も投書しています

市政へのまなざし新たに



初川 宣子さん
(下横野)

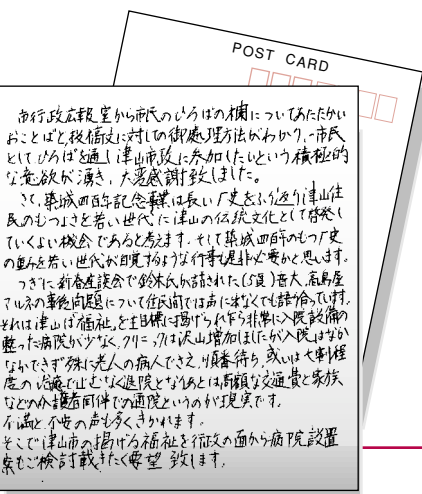
昨年、広報紙を読んで
いるとき、「わたしもひとこと」欄がふと目に留まりました。市民の質問に対し、ていねいに回答する市の職員の言葉。それが印象に残り、日ごろの不満や意見を誰もが自由に言える場があることを再確認しました。「それなら私も出してみよう」とペンを取ったのが投書のきっかけです。

以来、毎月のように投書し始めました。すると、それまで何気なく見ていたものが新鮮に映り、「これは問題なのではないか?」「このイベントはすばらしい!」と無関心でいられなくなりました。ぼんやりとしていた気持ちが目覚めたようです。まなざしを新たに市政を見られ、市民としての自覚ができたともいえるのでしょうか。いまや投書することが生きがいの1つにまななっています。

このコーナーは、市政と直接つながっている場。このような形で市民の声が吸い上げられていることをありがたく思います。

市政に関心を持つ人が増え、「市民の声の輪」が広がっていくことを願っています。

市民の声を聞く機会が増え、



- ・中心市街地や駅前活性化
- ・救急医療体制の充実
- ・さくらまつり以外の観光のあり方
- ・これらの提言は、津山に住んでいる人だけでなく、津山を出て県外に住んでいる人たちからも寄せられています。郷土を離れてもお、津山を良くしたいとい

「津山を良くしたい」思い

提言の中には次のようなものもありました。

・アルネ・津山への公金投入の反対

う思いを感じました。また、市職員の勤務態度や応対について苦情や注意をいただきました。該当者だけでなく、職員全体のことして重く受け止めています。

日々感じていること

ペットの飼い方、交通マナー、ごみの不法投棄、ごみの焼却についての苦情も届いています。その中で、津山のごみ行政について取り上げたテレビ番組についての感想もありました。

増加するごみの減量に向

け、市民と協働で行っている津山の取り組みは全国的にも高く評価されています。

イベントを通して

市の行うイベントについては「音楽祭に期待している」「車いす駅伝に感動した」という感想の一方で、「車いす駅伝や音楽祭にお金をかけないで」という指摘もありました。

また「講演会などの開催日が重なっている」との指摘もいただいています。

移り住んだ人の目から

市外から移り住んだ人からは「ごみの分別がたいへん」「町内会費が高い」「交通の便が悪く、住みにくい」などの感想をいただいています。

その反面、環境問題への取り組みや桜のすばらしさ、グリーンヒルズ津山や衆楽園などの公園整備、緑の多

さについて高い評価をいただいています。

もっと市民の声に耳を

毎月行政広報室には、さまざまな立場の人からいろいろな声が届きます。1つの事例についても、いただいた数と同じだけの考えがあります。

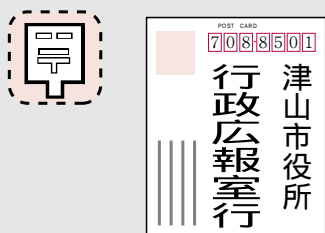
津山の発展を願う建設的なご意見に対して、十分な対応や回答がすぐにできないこともありますが、大切な声として市政に役立てていきたいと考えています。

「市民と協働のまちづくり」は、現在の市政の大きな課題。みなさんからの声があつてこそ実現できるものです。お気付きになった点をどしどし投書してください。

市民の声についてのお問い合わせは市行政広報室 2029へどうぞ。

投書の方法

はがき(封書)の場合



Eメールの場合

meyasu@city.tsuyama.okayama.jp

ファクスの場合

☎25-0263へ